

VISION

The Brotherhood of St. Andrew Japan, Inc.

《幻がなければ民は墮落する》箴言29章18節



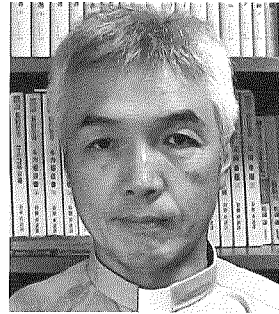
一般社団法人日本聖徒アンデレ同胞会
〒105-0011 東京都港区芝公園3-6-18
日本聖公会東京教区会館内
3-6-18 Shibakoen, Minato-ku, Tokyo
TEL 03-3436-4325 FAX 03-3432-1696
http://www.brotherhood-st-andrew-japan.org

BSA 会報《季刊発行》

発行人 足立征三郎
編集者 萩谷長生
印刷所 株式会社スコポレーション

新たな出会いと関わりを 生み出していきたい

司祭 マルコ 柴本 孝夫



全国のBSAに関わる皆さま、縁あって今回大切な機関紙の巻頭言を書かせていただくことになりました。九州教区司祭の柴本孝夫と申します。この紙面を通して多くの初めての方々との出会い、久しぶりの方々との再会となるのではないかと期待しつつ九州・福岡からメッセージを送らせていただきます。

ランベス会議に参加して

首座主教 ルカ 武藤 謙一

7月26日から8月8日までカナタベリーのセント大学を主会場にして15回目のランベス会議が開催されました。本来は2020年に開催予定でしたがCOVID19のため2年延期され、2021年からは月に一度のBishops' Conversationという小グループでの予備的な学びと交流もなされてきました。公式の発表はありませんが、主教約650名、配偶者約450名が参加したと聞いています。今回女性の主教は98名でした。日本聖公会からは7名の主教、4名の配偶者が参加し、2名の司祭が通訳として同行しました。

490回まで救せ、ではなく、むしろ無限に救い続けなさい、と神さまは言われています。そして続くとお話を通して、自分が救われていながら他人を決して救えない私たちが人間の姿が示されます。救えないことは痛みや苦しみの連鎖を生み出す。だからぜひ人を救う生き方をこそ選び取っていきましょう、と締め括りました。聖書のメッセージとして聖書の価値観が地域また社会に広がっていき、この言葉に触れた一人ひとりの心が揺さぶられて、その心と身体に染み入っていくことを願っています。

今教会に必要なことは、主イエスが様々な状況、とくにたくさんいらい思っている人のところを積極的に訪ねられたように、私たちも地域の人々の中に分け入って、まだイエスさまとの出会いを経験していない人たちに、聖書の言葉に触れていない人たちと関わりながら、この神さまのみ言葉を分かち合っていくことだと思います。私たちの教会がいつしか会員制の集まりのようになって、決められた人たちが繰り返し訪れるだけの場所になっていないか、しっかりと再点検したいと思えます。教会には子どもたちや青年たち、各種奉仕の集まり、そしてBSAなど様々なグループが存在しますが、そのようなあらゆるチャンネルも大切に活かしながら、新たな人々との出会いと関わりを生み出していきたいと思っています。

7月26日から8月8日までカナタベリーのセント大学を主会場にして15回目のランベス会議が開催されました。本来は2020年に開催予定でしたがCOVID19のため2年延期され、2021年からは月に一度のBishops' Conversationという小グループでの予備的な学びと交流もなされてきました。公式の発表はありませんが、主教約650名、配偶者約450名が参加したと聞いています。今回女性の主教は98名でした。日本聖公会からは7名の主教、4名の配偶者が参加し、2名の司祭が通訳として同行しました。

今回の会議のテーマは「神の世界のための神の教会」です。気候変動(自然災害)、戦争・紛争、暴力、貧困、COVID19など、世界の聖公会が直面する課題を互いに分かち合い、神の民としてどのように仕えていくかを協議する場となりました。今回のテーマに基づき、全体会議での講演に合わせて10の課題について小グループで話し合いました。その課題は①宣教と福音伝道、②セーフティ、③聖公会のアイデンティティ、④和解、⑤人間の尊厳、⑥環境と持続可能な開発、⑦キリスト者的一致、⑧宗教関係、⑨弟子であること、⑩科学と信仰です。これらの課題について「ランベスからの呼びかけ」(ランベス・コール)という文書が各起草委員会から提出され、検討されました。小グループから提出された意見も考慮しながら、各起草委員会が最終的な文章を作成し、「ランベスからの呼びかけ」として公表される予定です。

*今回のランベス・コールでは最も注目されたのが「人間の尊厳」に関するものでした。事前案は「1998年ランベス会議の決議10・1」(結婚に関する決議で男女間の結婚が正統であるとすることを認める)以外に、対してアメリカ、カナダの主教たち、さらにウエールズの主教会からも懸念の声名が出され、一部、起草委員からも起草委員会原案にはこのような表現はなかったとの指摘もあり、結局修正案が再提出されました。また同性婚に反対の立場の主教たちも別の決議の提案を準備していたようです。このコールが協議された当日、カナタベリー大主教は全主教宛てに手紙を送りました。その内容は、1998年ランベス会議で決議されたことを認めつつ、同時にある管区においては神学的議論を経て同性婚を認めており、アングリカン・コミュニケーションがこの課題を巡って対立があることを明らかにし、このコールについては賛否を問わず、今後も議論を継続していくというものでした。

カナタベリー大主教は最後の講演で、セクシャリティを巡る対立を抱えながらも、アングリカン・コミュニケーションは、神様が造られた世界に対する使命を共に果たしていこうと呼びかけました。「ランベスからの呼びかけ」は拘束力をもつものでもありません。また日本の状況に合わないものもあるかもしれませんが、しかしアングリカン・コミュニケーションの一員として日本聖公会も、この呼びかけに真摯に応えたいと考えています。

11月11日総会
第1号議案 2023年度事業活動計画(案)承認の件
第2号議案 2023年度会計収支予算(案)承認の件

司式・説教：司祭 フランシス下条裕章(本部チャプレン)

感謝礼拝聖餐式および入会・再宣誓式

日時 2022年11月26日(土) 13時
場所 聖アンデレ教会 東京都港区芝公園3-6-18

一般社団法人日本聖徒アンデレ同胞会第111総会を左記の通り開催します。
2022年11月4日
会長 足立征三郎

「教えて！教区はどうなるの？」 BSAセミナー、3年ぶり開催

2022年度のBSAセミナーが10月8日(土)午後1時からズーム方式で開かれ、68名が参加した。コロナ禍のため、3年ぶりの開催となった。

宣教協働区と伝道教区の設置

今年のテーマは「教えて！教区はどうなるの？」。

2020年10月の日本聖公会第65(定期)総会で、「日本聖公会法規の一部を改正する件」(宣教協働区・伝道教区制の設置)が可決された。教区再編成を促す法規改正である。

これにより、現在11ある教区を東日本、中日本、西日本の3つの宣教協働区に分け、各々の宣教協働区で協働すること、また、教区は教会の決議と総会の承認によって教区主教を置かない伝道教区に移行することが可能になった。

信徒の不安をタイトルに

教区再編成を促す法規改正が決議されたから丸2年、自分達の教区や教会はこの先どうなるのだろうか？と多くの人が懸念している。

ある信徒からは「教区編成変えの話聞いたのはごく最近です。コロナ禍のため、礼拝出席者も半数以下です。多くの信徒に伝わっていないと思います。」というメールが送られてきた。コロナ禍が影響していることは確かだ。

BSAが「教えて！教区はどうなるの？」というテーマを選んだのは、こうした信徒の疑問や懸念を掘り上げたいと考えたからである。

講師の矢萩新一管区事務所総主事は、教区再編成計画を主教

会と共に進めてきた一人である。

参加申込者には、予めズーム会議招待状(ズーム・リンク、ズーム会議ID、パスコード)と講演用のレジュメを送った。



講演する矢萩新一総主事

なぜ、今、教区再編成か

矢萩総主事は、三つのポイントについて、およそ一時間講演を行なった。

まず、現在ある11教区の成り立ちを歴史的に概観した上で、憲法法規にみる教区や宣教協働区、伝道教区が如何なるものであるかを説明した。

教区再編成論議はすでに1970年代から始まっており、2004年の第55総会では教区制改革委員会を設置、2020年の第65総会では、宣教協働区・伝道教区制が導入されるなど、検討は継続して行われて来ており、今急に出て来たものではないことを強調した。

では、教区再編成は、なぜ、今なのか。私たちが一番知りたかったことである。

聖職・信徒の減少やそれによる財政上の問題、そうした状況下で日本聖公会が時代を見据えた宣教活動を展開していくためには、ここで思い切った発想の転換が必要である。聖職・教役

者任せにすることなく、宣教の最前線はそれぞれの教会にあることを強調して、理解と協力を求めた。

最後に、この計画を実施するに当たって遭遇するであろう課題に言及した。特に教区間の異同(聖職・信徒数、財政規模、給与体系など)や、永年培って来た歴史、文化、伝統、しきたり等の違い、京都・大阪教区間の統合問題の教訓など、越えるべき山はいくつかあるが、多様性を尊重しつつ、その中から一致点を探り、社会の変化に回答する体制を作り上げていきたいと結んだ。

講演の後、休憩を挟んで参加者からの質問に答えた。教区再編成に関して、全国規模で「学びの場」を設定したのは、BSAセミナーが初めてである。

教区再編成計画の内容を中心としつつ、ここに至るまでの経緯と課題にも言及したレジュメは、この問題を考える上での最良のテキストになるであろう。

道を開いたズームの活用

ズーム方式の採用で、全国のBSA会員はもとより、会員以外の方々にもBSAの活動に直接接し、BSAを身近に知っていただく機会になったことは大きな収穫であった。

実施にあたっては、ズームに詳しい蘆田信裕さん(葛飾茨十字教会)と湯田啓一理事に準備段階から助言と指導を受けた。記して感謝を申し上げたい。

広報は、東京教区の「きょうくニュース」(「管区事務所だより」)、VISION、BSAホームページ等を中心に行なった。BSA会員には、VISIONに加えて、郵便でも参加勧奨を行った。横浜聖アンデレ教会で

は、早野勝徳支部長が、参加を呼びかけた。

また、三光教会、インマヌエル新生教会、横浜聖アンデレ教会、清里聖アンデレ教会、久留米聖公会では、聖職・信徒が教会に集まって聴講した。

教区再編成という身近なテーマであり、聖公会の聖職・信徒に広く呼びかけた。

ズームはもともと普及していると思ったが、全国的に見るとまだ低いようだ。しかし、ズームの採用は時代の流れである。初めてのズーム方式の結果を検証し、運用と利用のしやすさの両面から可能性を探っていきたい。(理事 ダビデ吉松英美)

シリーズ 宣教協働区(6)

「これからの教区はどうなるの？」

管区事務所総主事

司祭 エッサイ 矢萩 新一

これまで、5回にわたって宣教協働区・伝道教区制のことに記してきましたが、詰まるところ現在の11教区制はどうなっていくのか？が、皆さんが一番知りたいところだと思えます。その答えは神さまのみぞ知る！なのですが、現実的な数値から見てみたいと思います。過去約100年の10年毎の現在堅信受領者()内は教役者の人数でみると、

1901年	5,047	(335)
1921年	7,756	(321)
1931年	10,683	(404)
1941年	10,706	(300)
1951年	12,310	(302)
1961年	17,893	(469)
1971年	20,476	(327)
1981年	22,276	(318)
1991年	20,476	(327)
2001年	20,523	(268)
2011年	17,683	(276)
2021年	12,313	(233)

と、今は、戦後すぐ頃の教勢と

なっています。現在のままの減少率で行くと、2030年には11,444(135)と予測されています。戦前は宣教師の教役者がたくさん奉仕されていたとはいえ、現在の全国305の教会・伝道所・礼拝堂に対して233人と、教役者不足は深刻です。

これまで、何度か教区再編・区割りの検討や宣教協働の議論がなされてきましたが、具体的な実りや効果はほとんどみられません。しかし、いよいよその危機感が現実味をおび、教区という枠組みを超えて、協力し合う必要性に迫られてきています。それぞれの教区の中

でも、教会によって礼拝の持ち方や宣教・伝道の姿勢に、あるいは教役者によって聖書の読み方や神学的な傾向に違いがあると思えますので、教区のカラが違いうから協働や再編は難しいというの、重い腰を上げきれない言い訳なのではないかと思っています。

かつての英国(SPG)とCM(S)・米国・カナダの4つのミッションから派遣された宣教師たちはそれぞれの伝統を押し付けているのではなく、日本の文化に根差した聖公会の設立が大切だと、祈り話し合いながら多様性の一致や中道性の伝統を大切に、協力し合って日本聖公会の基を築いてこられました。現在の11教区体制になったのは、1972年(1941年には10教区となり沖繩が加わった年)で、1985年の宣教開始から163年目の日本聖公会の歴史の中で見ると、わずか50年前のことです。時代の変化の中で、教会の置かれた地域全体をその司牧の視野に入れ、信徒と聖職が協働し、解釈し続ける共同体として社会の様々な必要を教会

の宣教の使命ととらえ、福音に生きようとしてきたのが聖公会という名の教会です。

北関東教区と東京教区が新教区の設定を目指す協働の歩みに注目しつつ、教区間だけではなく教会間の協働も不可欠な現状だと思えます。自分の教会や教区は関係のない話だと思ってしまうが、積極的に今の姿を捉え直し、豊かな出会いと交わりを楽しみながら、よりよい方向を模索していく機運を高めていきたいと思えます。神さまの導きに信頼して変化を恐れずに、「弱さの中に強さがある」と決断していける前向きさがあるならば、素敵な日本聖公会の枝に繋がるキリスト者としての歩みを継続していけるのだと信じています。みんなそれぞれに異なる価値観や人生を歩む者ですが、聖餐における一致に生きようとする強みを持っているのですから。ハレルヤ、主と共にいきましよう。

編集部から

シリーズ「宣教協働区」は本紙第147号(昨年4月発行)から6回(最終回)にわたり次のような内容で連載して来ましたが、

- (1) 宣教協働区・伝道教区制
- (2) 2022年宣教協働区
- (3) 「宣教協働区・伝道教区制」導入という変革
- (4) 宣教協働区委員会の働きと教区再編
- (5) 各宣教協働区委員会の働き
- (6) これからの教区は

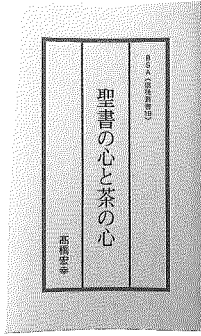
どうなるの？
エッサイ矢萩新一司祭には管区事務所総主事としての激務の中を毎回ご執筆いただき感謝。その労に対して心より感謝申し上げます。

信徒叢書を読む 『聖書の心と茶の心』

真光教会

テレジア 鈴木道子

高橋主教様が趣味として茶道をあげておられるのを、以前教会のホームページか何処かで知って、そのことをもつと知りたいたと関心を持っていました。昨春秋、教会のBSA信徒叢書の棚で高橋主教様著の『聖書の心と茶の心』を見つけて、早速読ませていただきました。



子供のころから茶道に接してこられた様子、聖職の道を歩みながらの茶道への思いなどが淡々とつづられていて、心に沁みるものがありました。

数十年前、団地住まいをしていた頃、住人は殆ど同年代でした。子供たちを幼稚園や小学校に送り出した後、母親の一人がお茶に誘っていただきました。一服のお茶と小さなお菓子がしみじみ嬉しく、今でいう「ママ友」のお茶の時間でした。

「床の間もない、水屋もない」もちろん「炬もない」団地の一角がお茶室で、「行ける時だけ行く」お稽古が始まりました。先生は私より若い人ですが、経験豊かな方なので、いろいろ工夫してくださいました。

「置き床」、「置き炬」を準備してください。水屋は廊下の一隅に棚が設けられました。今になって、この頃に有難い時間と出合いを頂けたこと、お茶の心に触れさせて頂いた事に心から感謝しています。

月日が流れてそれぞれが引越して、子供たちも独立して家庭を持っています。皆さんそれぞれ、家庭の事情もあり断続的

したが、今も月一回、大田区久が原まで向うのを楽しみにしています。皆さん横浜から、都内から時間をかけてここに集まっています。

先日、先生に高橋主教様の『聖書の心と茶の心』を差し上げましたところ、早速、以下のようなお手紙をくださいました。先生はクリスマスチャンではないらっしゃいませませんが、お茶の心『聖書の心』を実践されている方だと思えます。

どうぞ、皆様も是非一読ください。 (私信ですが、お許しを得て)

『聖書の心と茶の心』に大きな感銘を戴きました。文字に記して下さるって有難いですね！ひとりですらと漠然と想っていたことが「同感」とか「やはり！」とか、共鳴、確信が持てました時、さわやかな気持ちにさせていただきました。

「一期一会」常に一回限り「一より習い十を知り元に戻るその一」初心に帰る「茶室」教会」時間の間、人との間、こころの間(好きな言葉です)

キリスト教の礼拝「お茶のお点前 授かった心で人を思う！」(この一語に尽きます)

利休さん考案のお濃茶の飲み回しが聖餐式からヒントを得たのでは？との説に、以前から賛同しておりました。ありがとうございます。感謝です。

令和3年 秋に

注：真光教会報第161号から、同教会および筆者の了解を得て転載しました。

信徒叢書 市原信太郎著 『聖公会 はじめの一步』

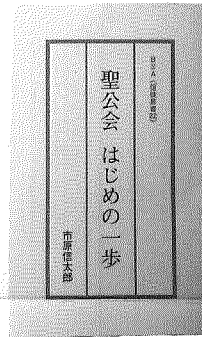
福岡聖パウロ教会

ヨセフ 秋山献之

聖公会とはどんな教会だろうか。カトリックとプロテスタントの中間で中道の教会と言われ

る。三聖職位を大切に、礼拝には祈禱書を用いる。また教区からなる管区として運営される一方、イギリスのカンタベリー大主教を中心とするアングリカン・コミュニオンとして世界大のつながりを持つ。

なぜ、聖公会はこのような特徴を持つのだろうか。市原信太郎司祭によるこの本は、この疑問に答えてくれる。



聖公会の成立は、世間一般に言われているヘンリー八世の離婚問題だけではなく、多くの複雑な事情によるものであったことを事実に沿って述べ、エリザベス一世の時代に中道の道へと進んでいった経緯が記されている。

次に、聖公会が世界に広がっていった例としてアメリカ聖公会、日本聖公会の成立の経緯についても語り、最後に、最近の世界聖公会の交わりについての状況報告で結ばれている。

ランベス会議開催の年、『聖公会 はじめの一步』をこの書で学ぶことをお勧めしたい。(前福岡支部長)

インマヌエル新生教会 支部長 サムエル 天野公成 冒頭に、聖公会とはイギリス(イングランド)にルーツを持つ「英国国教会」と呼ばれる教会から世界中に広がった教会と書かれています。

15世紀のイングランドの状況から現代のアングリカン・コミュニオンまで、聖公会の歴史がわかりやすく説明されており、英国発祥であることと国教会という性質(地域全体に責任を持つ)がいかに聖公会の成り立ちに影響を与えているかを初

めて知りました。イングランド国王の後継ぎ問題によりカトリックから独立した箇所は特に興味深く読みました。

また、聖公会は、教会制度はカトリックと共通点が多いが、ローマカトリック教会や東方正教会に属していない点でプロテスタントであることから、「カトリックとプロテスタントの中間」と呼ばれているとあります。プロテスタントの他教派の礼拝に出席した時の違和感を思い出しました。

本書を読み終えて「聖公会とは何か」を考える上で、題名どおりに一歩を踏み出したことを実感しました。

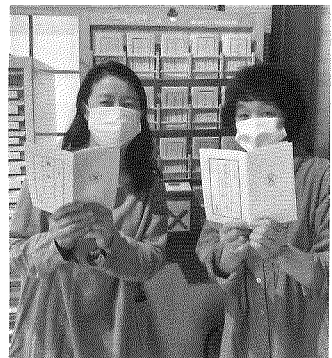
信徒叢書のある風景(13)

清里に2台目の書架設置

清里聖アンデレ教会支部長 理事 アブラハム 野田 徹

山梨県清里の聖アンデレ教会に、8月17日清里で2台目の信徒叢書書架が入った。一台目はポール・ラッシュ記念館の売店コーナーにある。今から17年ほど前に設置され、月に数冊ずつコンスタントに売れている。

しかし、屋内にあるため、休館日や閉館時には手に触れることができず残念に思っていた。そんな時、永井信行理事の勧めで、BSA本部に残っていた書架を清里聖アンデレ教会の礼拝堂入口に設置することになった。



おかげで24時間無人販売方式で、どなたにもお求めいただけます。

るようになった。さいわい、設置以来、売れ行き好調で、設置した甲斐があったと感謝している。

BSA信徒叢書

聖公会という名の教会(一)

竹内 寛著

聖公会という名の教会(二)

今井丞治著

奇跡は語る 竹内 寛著

復活 竹内 寛著

聖書に聴く(一)(二)(三) 速水敏彦著

キリスト教史―古代 菊地栄三著

キリスト教史―中世・現代 菊地栄三著

十字架 竹田 眞著

サクラメント 竹田 眞著

礼拝一口メモ(一)(二) 竹内謙太郎著

わたしたちの『祈禱書』 森 紀巨著

米国聖公会(一)(二) 飯田徳昭著

(以下、新刊) 聖書の心と茶の心 高橋宏幸著

ウィリアムズ主教に学ぶ ―その生涯と同師をめぐる人々 松平信久著

神の教会・わたしたちの教会 ―信徒の奉仕職のヴィジョン 加藤博道著

(本年6月発行) 聖公会 はじめの一步 市原信太郎著

おかげで24時間無人販売方式で、どなたにもお求めいただけます。

事務所引越 株式会社ギンテック 港区港南3-4-12 0120-223-008

ホームメイド・チーズケーキの店 CHEESE CAKE JOHANN 和博 和博 和博

立教企画グループ 学校業務受託、人材派遣等承ります。 http://www.rikkyo-planning.co.jp

St Luke's 会員制健康クラブ 聖路加フレンズ 03-3541-1056

ビジョン広場

私の好きな聖句

東京聖三一教会
ヨハネ 加藤 望
最初に言葉があった。
言葉は神と共にあった。
言葉は神であった。
(ヨハネ1:1)

されど人の用いる言葉は、暴力を生み出し、常に危うさと安らぎを孕んでいる。
フランスの某司教は大衆紙「フィガロ」のインタビューで「キリスト教は西欧ではもはや異邦人のための宗教、ルネッサンス(文芸復興)の影響で知性が本流となり、聖職も教会も口ゴス(論理・理論)を優先し、パトス(感性・感情)と愛の実践が置き去りにされたため」という趣旨のことを語っている。

因みに、「感情には理屈には全く知られぬ感情の理屈がある」として「実在とは至るところに中心があり、どこにも周縁がないような無限の球体である」。更に「人は愛を語る」ことによって愛するようになる「は私の好きな晩年のパスカルの言葉である。」

理事 ダビデ 吉松英美
あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によつて塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。(マタイ5:13)
卒業式や結婚式ではなむけの言葉の定番となっている。聖書に挟んであった切り抜きにこんなものがある。
朝日新聞のコラムに解説委員の三浦俊章氏が書いた「地の塩」である。(2008年10月20日)「30年たった外交文書は原則、国民に公開する」「30年ルール」

を、学会や言論界の強い要望を受けて決断したのは、故大平正芳氏だった。歴史家の故萩原延壽氏は大平氏を回想している。「大平さんは、日本が国際社会で、尊敬されるにはどうしたらよいかを、たえず模索していた。こういう地の塩のような仕事をやる人だった。」
地の塩とは、聖書の言葉で、世の腐敗を防ぐ役割を担う人を指す。クリスチャン大平にふさわしい賛辞だ。

この聖句には2000年前とは思えない新鮮さがある。
聖マルコ教会(東京)
評議員 サムエル 戸川達男
わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう。
(マタイ4:19, マルコ1:17)
じつは、わたしが好きなのは福音書から抜き出したこの箇所。この箇所は、この箇所が好きなのです。主イエスが突然漁師のアンデレの前に現れて上の聖句の言葉で告げたときの状況として「イエスはわたしを見つめた。わたしはわたしを呼ばれる」という言葉が歌詞に加えられているのです。

さらに、この言葉から想像を広げると、アンデレはすでにイエスの語る言葉を遠くから聞いていて心を動かされていたのかもしれないと思うのです。
それならイエスに見つめられ、名を呼ばれ、招きの言葉が語られた時、すぐにイエスに従ったのはとても自然なことだったように思えるのです。わたしはこんな想像をするのが好きなのです。

寄稿 収穫の秋

一般社団法人
「あぶらむの会」代表
クリストファー・ダビデ
大郷 博

主の平和 コロナ禍のこの3年、日本BSAに連なる皆様にはいかがお過ごしでしょうか。
「人生は旅」、そんな人生旅程の途上で進むべき道に迷った、難儀している人々のよき理解者、援助者でありたいと願い、飛騨高山のこの地に「旅人の宿」を開いて35年余が経ちました。ここで旅人が疲れた靴を脱いでなんぼの世界なのですが、このコロナで訪れる人もなく、全くの陸の孤島と化したアブラムです。「終わりまで耐え忍ぶ者は幸いです」という御言葉に励まされ、農作業や山仕事など季節労働に勤しむ私たちです。
アブラムの働きの一つに、家庭裁判所の委託を受けての少年の更生保護の仕事があります。16、17歳と人生歩き始めたばかりというのに、立ち止まって自分自身と今一度向かい合うことを求められ、私たちが半年余り生活を共にするものです。この20年で22名を数えました。どの少年にも共通することは過酷な生活環境と大人や社会への不信感です。人として生きる上で最も大切な「信頼」というたった二文字をどう伝えるのか、それは大人としての私自身が問われることに他なりません。

また裁判所は裁判所で「少年に被害者への償いの気持ちを持ってほしい」と言います。そんな魔法のようなものがあれば教えてほしいとつぶやく私がいます。少年の心の荒れ様は食事の仕方に現れます。その食事は食事ではなく「餌(エサ)」なのです。

「もしそれが神の御心に叶うものならば全てが与えられる、見ず知らずの地で0(ゼロ)から

出発したアブラムの会も、石の上にも30年。いつの間にか2万4千坪の敷地となり、数棟の建物も建って里らしくなりました。敷地の維持管理等、やるべき季節作業は山ほどあります。これをここで生活を共にする少年と丁寧に行うこと、それが私の唯一の方法論です。象徴的に言えば「お米が育てるまで」を少年と丁寧に行うことです。
田起こしや代かき等、田植え前の準備作業。稲刈りまでの間の雑草との闘い。稲刈りは昔の人の苦勞に思いをはせるために手刈りとバインダーという機械刈りのハイブリッド刈り。コンバインは先人の苦勞をわからなくしてしまつたため使用しませんが、ハサにかけての天日干し、そして脱穀作業を終えて米倉へ。この一連の作業を少年と一緒にやり終えます。

そうするといつの間にか食事の仕方がきれいになります。一杯のゴハンが自分の口に入るまでにどのような苦勞があるのかを体験的に知るだけで、少年達の心はどんどん豊かに、みずみずしく輝いて行くのです。
何てことはない、昔の人の生活は子育てに必要な全ての要素を持っていたのです。時代遅れだわ、何だわと言われようが、経験的にこれが一番少年の心に届き、餌が食事となり、共に汗

を流すことが「信頼」への第一歩となるのです。
今年も立教時代の卒業生10名余りを加え、にぎやかな稲刈りとなるでしょう。まさに恵の秋、収穫の秋です。
(司祭・元立教学院チャペレン) 編集部注：筆者は1987年飛騨国府に「あぶらむの会」を設立し、人生のよき旅人づくりの活動を行ってきた。近著に「CANINO de ABRAM」あぶらむへの道」がある(VISION171号「新刊案内」で紹介)。



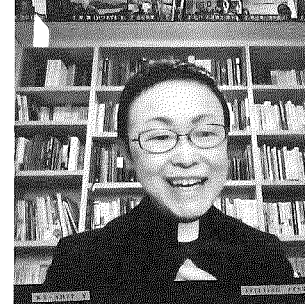
稲刈りを終えて喜ぶ少年等と応援部隊 (左から3人目の白帽子が筆者)

支那だより
恵みと喜びの分かち合い
福岡聖パウロ教会
支部長 モーセ 酒井 健
コロナ禍のもとで、毎月第一主日に行っている「恵みと喜びの分かち合い」は、BSA主催の勉強会というタイトルで活動してきました。
2020年から「恵みと喜びの分かち合い」と変え、男女を問わずすべての礼拝出席者に参加を呼びかけています。
現在は毎回4、5名で活動しております。固定メンバーではなく、どなたでも、いつでも歓迎というスタンスです。
これまで、教会問答を改めて読み、堅信を受けた時の気持ちをも再確認したり、「マタイ」による福音書「五章の山上の説教」をじっくり味わってきました。

ここ一年は「祈禱書の中の聖書箇所」をピックアップして、み言葉を分かち合っています。聖餐式の中で唱えられる言葉の中で、聖書から引用されたもの(主の祈りや祝祷など)を読んでも、参加者が自由に発言していません。話を聞くだけでも構いません。続き物ではなく、毎回完結します。
分かち合う喜びが少しでも広がるよう、これからも地道に活動を続けていきます。

北総宣教協議会
第32回キリスト教勉強会開催
房総・北総両支部の会員・賛助会員が所属する北総宣教協議会では聖職者や専門家からお話を聞く会を毎年秋に開いていける。今回は10月15日の午後、北海道教区のマリア・グレイス笹森田鶴主教会を講師としてお招きし、「北の大地に住みはじめて：宣教・牧会について思い巡らすこと」と題する講話を拝聴した。着座後わずかず半年、広い北海道教区内23の教会と2つの伝道所を車で巡回する笹森主教の多忙ながら充実した働きについて熱く語られた。

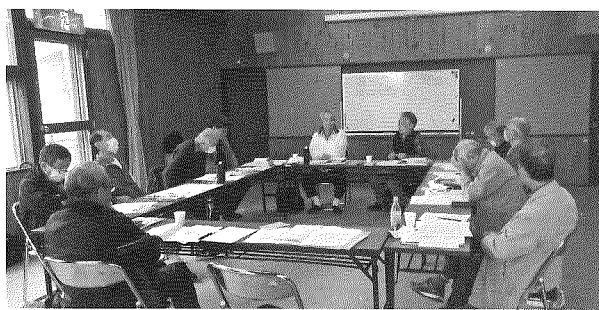
今回はコロナ感染を予防して札幌発信のオンライン方式で行われた。そのため受講者は房総・北総地区に留まらず東京、横浜教区の他、東北、中部、九州の各教区に分布し、その数は80名を超えた。
(理事 テモテ秋谷長生)



テモテ秋谷長生 (理事)

清里アツセンブリー

理事会メンバーを対象にした頭書の集まりが10月11日〜12日の2日間、清里・清泉寮で開催された。理事会は毎月開かれていたが、重要案件について時間をかけてじっくり話し合おうというのが眼目であった。参加者は本部チャプレンの下条司祭、正副会長を含む理事11名であった。

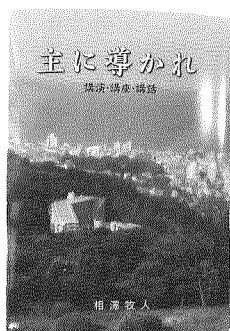


主な議題は*現定款と現在おかれているBSAの現況、*2023年度事業活動計画、*2027年の100周年の迎え方、*それ以降の中長期展望などであった。延べ約6時間にわたって活発な議論が交わされた。今まで9回にわたってBSAの諸課題を審議してきた特別委員会(委員長・松田正人理事)の議論を踏まえ、用意された諸資料に基づき「BSAの基本的精神」を振り返り「祈祷と奉仕」「二人が一人を」、誰が誰に対して行うなど、熱い議論を交わし、今後も新しい展望が開けることを望んでいる。

この企画を立案し、会場との

新刊紹介

相澤牧人著『主に導かれ』



相澤牧人司祭(横浜教区・退職)がこのほど『主に導かれ』を出版した。講演、講座、講話を集大成したものである。

相澤司祭は、これまでに説教集『主は牧者(A年)』、『緑の牧場(B年)』、『憩いのみぎわ(C年)』の三冊を2019年から発行してきた。どれも400ページを超える。

『主に導かれ』を加えて4部作となり、本人は「これで最後かも」と話している。それにして4年連続して出版するエネルギーには驚くほかない。

説教集を読んで、私が強く感じたのは、聖書を読む時は、導き手が必要だということである。

厄介なのは、自分なりに読んで何となく分かったように感じていることである。それが後になってそうでないことばかり、己が不明を恥じることがしばしばである。

遠藤 徹さん(横浜山手聖公会)は、『主は牧者』の紹介記事で、「目を覚まされた。これを讀んだ前後で、聖書は別の書物として私の前にある。」と書いている。(VISION 172号)

相澤司祭の説教集は、そんな迷える仔羊を群から離れないように導いてくれる。内容が濃いので、一度に読むのはせいぜい2、3話である。

牧人司祭の父で、司祭であった相澤誠四郎師に、「聖なるドラマ」という著書がある。「聖なるドラマ」とは、聖餐式のことである。誠四郎師は、「聖餐式では、その日の福音書をしっかり説くことが必要だ」と強調している。福音書は頭に振るだけで、後の時間を世間話に費やすことを厳しく戒めている。相澤司祭は、父の教えを忠実に継承している。

相澤司祭は、何を言おうかなどと心配してはならない。言うべきことは、聖霊がそのときに教えてくれる。タラントンの譬え(マタイ25・14)を組み合わせて考える時、その真実が腑に落ちるといふ。つまり、与えられたものに忠実に生きる時、祝福があるといふ。

『主に導かれ』は、「信仰の生活」、「命を生きる」の二つの章からなり、前者では、「洗礼・堅信準備のために」、「法憲・法規から読み解く信仰生活」、「私たちの祈りと生活―祈祷書の豊かさ再発見」が、後者では、「イエスのまなざし」、「いのちを守るために」原発のない世界を求めて、「十字架上の七聖語の黙想」、「神の国の構築のために」からなっている。全340ページはかなり読み応えがある。一話一話に相澤司祭の聖職者としての叡智がぎゅっと詰まっている。主を信じ、主に導かれて生きてきた信仰者としての証である。

相澤司祭は同時に『沈黙黙考』という新書版を出版した。

同書の「はじめに」によれば、新聞や読書、あるいは他人の話

を聞いた時、「これはいい話だ」と感じてメモしておいたものを整理して本にしたのだという。合わせてお読みになることをお勧めしたい。問い合わせは、直接相澤司祭まで。連絡先は「聖公会手帳」をご覧ください。

(理事 ダビデ吉松英美)

歓迎新入会員

テレサ 湯田千秋
(柏聖アンデレ教会)

- 理事会報告(7月〜10月)
- 7月22日(金)対面方式
- VISION180号編集計画
- 信徒叢書第22巻
- 『聖公会 はじめの一步』発行
- 特別委員会報告
- 定款の改定について
- BSAチラシ作成について
- 青少年キャンプ開催計画
- 清里アツセンブリー計画提案
- BSAセミナー準備報告
- 第111総会開催について
- 8月29日(月)オンライン
- VISION180号編集計画
- 特別委員会報告
- 定款の改定についてほか
- 清里アツセンブリー計画

「VISION」文芸

野田 徹

秋深し月影さやかな森散歩
晩酌のしみわたりたる十三夜
園児より親が張り切る収穫祭

雲辺(松岡正治)

老舗にはそれなりの人鱈雲
冷房のなき聖堂や磔図
聖歌集葉はらりと秋に入る

松平謙次

プーチンを祝福したる大主教「正教」名乗る欺瞞と墮落
敗戦忌ウクライナではなお続く破壊殺戮人道の罪
恋人を雨の神宮に見送りし媼は今年九十九歳

高橋恵太郎

ひたすらにただひたすらに彼岸花秋風を待つ里の畔道
ふくいくと香りただよう路地裏に今年も秋の訪れを告げ(金木犀の香り)
おぼろ月青松虫の声冴えて去りゆくひと日を静かに偲ぶ

吉松英美

白河の関越ゆるのに一〇四年「忍耐は希望に通ず」とパウロも言えり
凶弾の裏に潜むる生い立ちの闇の深さに言葉失う
この夏は蝉を聴くこと少なしと説教閉じる司祭の八月

- BSAセミナー準備状況
- 第111総会会場予定
- 9月30日(金)対面方式
- VISION180号編集計画
- 特別委員会報告
- 清里アツセンブリー計画
- BSAセミナー準備状況
- 第111総会開催について
- 10月24日(月)対面方式
- BSAセミナー実施報告
- 第111総会議案について
- 特別委員会最終報告
- セミナー講師への謝礼について

創立の恩人 ポールラッシュ
学校法人メイウシヤマ学園

ハリウッド大学院大学 ハリウッド美容専門学校

〒106-8541 東京都港区六本木6-4-1 六本木ヒルズハリウッドプラザ
☎0120-083394 www.hollywood.ac.jp

DO YOUR BEST

清里高原だより 清泉寮ニユース

紅葉の清泉寮の森を歩いてみませんか

●秋の清泉寮で自然散策

標高1,400mにある清泉寮周辺では、標高2,899mの八ヶ岳の頂きから、日を追うごとに美しい秋が降りてきます。森は鮮やかな紅葉に染まり、動物や虫たちの声も賑やかな、実り豊かな季節です。この気持ちの良い秋の清泉寮の森を歩いて、新進ともにリフレッシュしてみませんか。

清泉寮の敷地内には30分から半日まで、時間と体力に合わせて選べる自然歩道(トレイル)が整備されています。



清泉寮向かいの山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンターでは、清泉寮の森の見どころや、自然や文化について楽しく学べる情報がたくさん揃っています。森にお出かけの際には、ぜひ清泉寮と八ヶ岳自然ふれあいセンターにお立ち寄りください。

●清泉寮収穫感謝祭を開催

2022年10月16日(日)に「清泉寮収穫感謝祭」を開催しました。

例年秋に開催している「ポール・ラッシュユース祭」八ヶ岳カンティフェアは、山梨県のガイドラインに沿ったコロナ禍での開催が困難であるため、今年も中止といたしました。しかし、お客様や地元清里の方々の「小規模でも何かお祭りを開催できないか」とのお声もあり、規模・参加人数等を絞り込んで、公益財団法人キープ協会主催の「清泉寮収穫感謝祭」を開催することにいたしました。

当日は清里聖アンデレ教会の小林司祭の式のお祈りから始まり、無料のヘイライド、野菜の大安売り、ポール・ラッシュ博士の特別企画展など、様々な催しが行われ、「自然の恵み」およびコロナ禍において事業が無事に運営できたことへの「感謝の気持ち」をお客様、お取引先、地元清里の方々と一緒に分かち合うとともに、創設者ポール・ラッシュの功績を発信する場となったことと思います。



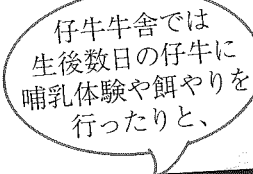
●清泉寮ジャージー牛ファンクラブ 通年でお得に清泉寮を乐しみただけです

2022年4月にスタートしたジャージー牛ファンクラブは、BSA様は法人会員となっております。体験プログラムや通年で清泉寮にお得に宿泊できる等の様々な特典が利用できます。

今年も多くの会員の方に清泉寮ジャージー牧場でのふれあい体験プログラムを楽しんでいただきました。八ヶ岳や富士山をバックに広々とした牧草地での牛とのふれあいでは、

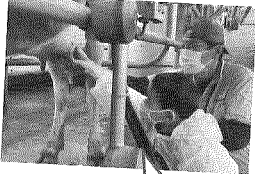


ちゃんでの近もの、赤い牛にきいたり、お腹に鼓動を触れたい。

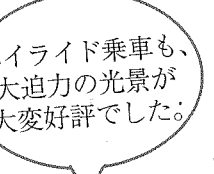


牛舎では牛の餌やりや、牛の身体検査、牛の生後哺乳の様子を見学。

かわいらしいジャージー牛の魅力を感じられるとお声を大変多くいただきました。



ミルクで搾乳体験やパーラー体験。



乗車も、大迫力の光景が大変好評でした。

秋冬は清里高原の大自然が最も美しい、自然の雄大な営みを直に感じられる季節です。ご予約には会員証および会員証に記載の会員番号が必要となります。ぜひBSA事務局様にお問合せの上、本クラブの特典をご利用ください。



エリザベス女王追悼ミサ

9月8日に96歳で亡くなったエリザベス女王の追悼ミサが、9月11日(日)午後3時から東京の聖オルバン教会で行われた。マイケル・モイヤー司祭が休暇で帰米中のため立教学院チャプレンのトマス・プラント司祭、ベレク・スミス司祭が補式をつとめた。

管区事務所によると、「首座主教名の用文を、カンタベリー大主教あてに送った。各教区から追悼ミサの報告はなく、通常の礼拝の中で用意を表したのではない」とのことであった。(理事 ダビデ吉松英美)

お詫び・訂正

*前号のビジョン広場「私の教名」中、大山義幸さんの文中で、朝礼とあるのは、正しくは、朝

の礼拝でした。お詫びして訂正いたします。
*前号のビジョン広場「私の教名」中、渡邊多茂夫さんの教名が逆になっていました。正しくはアルベルト・サムエルです。お詫びして訂正いたします。

会費納入のお願い

BSAの運営は皆さまの会費、賛助会費を財源として賄われております。会費納入にご協力のほどよろしくお願いいたします。郵便振替または銀行振込みのいずれでも承っております。

郵便振替口座

00170-5187165

銀行口座

三菱UFJ銀行 虎ノ門支店
普通預金 4057002
一般社団法人
日本聖徒アンデレ同胞会
(イッパンシヤダンホウジンニホンセイトアンデレドウホウカイ)

銀行振込の際は、お名前前に宛名ラベル右下の番号の下4桁を入力して下さい。

「ポール・ラッシュ特別展」開催



ポール・ラッシュ特別展が10月に清里の清泉寮で開かれた。ポール・ラッシュが清里に来て始めた農村青年育成事業などが写真を中心に紹介された。

訃報

工藤 俊雄 兄(95歳)
(インマヌエル新生教会)
7月2日逝去

増岡 堯夫 兄(86歳)
(真光教会)
8月2日逝去

古本 純一郎 師父(86歳)
8月30日逝去

松田 義夫 兄(92歳)
(東京聖三一教会)
8月30日逝去

佐藤 徹 師(88歳)
10月4日逝去

天野 公成 兄(62歳)
(インマヌエル新生教会)
10月21日逝去

編集後記

BSAの研修旅行で飛騨高山を訪れたのは10年以上も前でした。「あぶらむの里」の大郷 博代表はその時も、そしてすでに古希を迎えた今も迷える若者のよきリーダーとして活躍中です。そのエネルギーギッシュな姿が活写された寄稿「収穫の秋」でした。

今号の最終校正の最中にインマヌエル新生教会の天野公成支部長が62歳で急逝されたとの報。奇しくも叢書の読後感想文(3面)が絶筆となりました。パラダイスでの魂の平安をお祈りいたします。(N・H)